

就職で県外から転入してきた20代が
新たに‘起業’して自由に活動できるまち

- ・名古屋市や、自動車産業が集まる豊田市が近隣に位置することから、これらの地域の企業に向けた販路を開拓しやすい環境がある
- ・休耕地が多く残っているため、市街化調整区域を適切に転換し、若い世代が活動できる場をつくれる余地がある
- ・若い人たちが地域でチャレンジし、長く住み続けられる環境が整えば、まちの活力にもつながる



稲沢市に転入して間もない小学生が
帰宅しても安心なまち

- ・児童館や発達支援の施設が充実している
- ・空腹が満たされ、友だちと自由に遊び、学ぶことができる
- ・大人も子どもも含めて、共働き家庭や、ひとり親家庭の家族が安心できる



感想 参加者アンケートより

■ あなた自身が希望する稲沢市での暮らし

- ・自分時間をとりながら人とつながりやすい暮らし
- ・住みやすい・子育てがしやすい支援制度がある暮らし・誰でも住むことができる支援制度がある暮らし
- ・老人～乳幼児までが毎日笑顔で生活できる暮らしを希望します
- ・誰もが思う事・想う事を発言でき、実現できる暮らし
- ・世代が集い、楽しめる場所があるといい。いっしょに出かけられる
- ・どの世代の人でも充実して幸福を感じられる暮らしができること

■ 参加した感想

- ・世代の違う方とのお話は楽しかったです。ワークショップを通して、交流できる素敵な時間でした
- ・今回のワークショップを通してどんな市にしたいかを考えていたり、より良い市にするための行動をしたりしている方がたくさんいることを知りました。若い世代の意見が大切だと感じる瞬間もたくさんあったので積極的に参加していきたいと思いました
- ・時間がなくて、まとめるのが大変でした。でも、いろんな意見をきけて、良かったです
- ・理由が理想になりがちであった

開催概要

次期稲沢市総合計画の策定に向けて、市民の立場から将来の稲沢市のまちづくりのあり方について考えてもらうため、稲沢市みらいまちづくりラボを開催しました。第2回ワークショップでは、稲沢市で暮らす様々な人たちが、どのような魅力的な暮らしや仕事ができるかを考えました。いろいろな「ペルソナ（人物像）」を設定して検討することで、多様な市民がそれぞれの幸福感を得られるイメージを作り上げました。

- 開催日時：2026年2月21日（土）9:30～12:00
- 会場：勤労福祉会館 第2・3会議室
- 参加人数：19人



当日のプログラム

テーマ 稲沢市のウェルビーイングな暮らしを考える

- 開会・挨拶
- ガイダンス：第1回ワークショップで実施したことの振り返りと、本日の目標の説明をしました。
- 調査結果報告：市民意識調査結果の主なポイントを説明しました。
- アイスブレイク：他己紹介をし、グループにどんな人がいるか確認しました。
- 個人ワーク：市民の属性の稲沢市の魅力的な暮らし方・働き方等のキャッチコピーを考えました。
- グループワーク：個人ワーク結果をグループで共有し、特に稲沢市らしさを感じるものを2つ選定しました。
- 発表・投票：グループワークの内容を発表し、最もよいと思うキャッチコピーを3つ選んで投票しました。
- 閉会

成果

10年後の稲沢市の魅力的な暮らし方・働き方等のキャッチコピー

市内でカフェを開いた人が まちから GIFT がもらえるまち

- ・喫茶店文化がある
- ・老若男女が集う文化もある
- ・祖父江でお店を経営する中で、お客さんからお土産をもらったりするなどの出来事から実感したこともある
- ・まちの人の物だけではなく心の繋がりがあ



80 歳ひとり暮らしが安心して ワクワクできるまち

- ・公民館などで文化的なイベントがたくさんある
- ・イベントなどのアクセスに利用できるコミュニティバスの路線が豊富
- ・治安が良いため、田園風景を見ながら安心して散歩ができる
- ・散歩する中でまちの魅力も再発見できる

年金生活でも人生が 自由に活動的に楽しめるまち

- ・趣味を活かして社会との繋がりを求めている人が多い
- ・行動的でアクティブな人が多い
- ・趣味に関するコミュニティを立ち上げ、そこ作ったものを販売できる仕組みがあれば、活動への意欲にもつながる



世代が違って仲間との繋がりが 充実してつくれるまち

- ・名古屋との距離感が近い
- ・学生たちは徒歩や自転車で気軽に集まって交流できる
- ・行事やイベントに友人を呼びやすい
- ・日本一のイベントや、オンリーワンのイベントがあるため、他の人にも自慢できる充実したまち

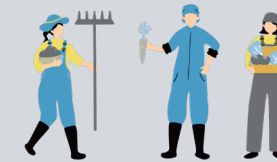


成果

10年後の稲沢市の魅力的な暮らし方・働き方等のキャッチコピー

農地を相続した 40 代が 安心して農業を続けられるまち

- ・肥沃な土地がある
- ・農地が豊富にある
- ・農業従事者が比較的多い
- ・農業政策に力を入れている
- ・一方で、まちと農地が共存し、便利で暮らしやすいまち
- ・銀杏や植木といったブランド製品もある



いなっぴー（稲沢市民）が 恩を巡らすまち

- ・まちのハードやソフトを充実しても、市民がウェルビーイングを実感できなければ住み続けられない
- ・天下の奇祭、国府宮はだか祭で厄を落とし、ハートウォームな市民が交流できる
- ・恩返しよりも恩送りによって人と人がつながり、思いやりが循環する稲沢市をつくっていききたい
- ・情けは人の為ならずであり、親切にしたらいずれ自分に返ってくるということを広めたい

名古屋で働く人（平日昼にいない人） が休日にリフレッシュできるまち

- ・お出かけスポットが多い
(例：リーフウォーク稲沢、アピタタウン稲沢)
- ・自然に触れられる
(例：公園、緑地)
- ・イベントが多い
(例：ウルフドッグス、名古屋文理大学文化フォーラムでのコンサート、国府宮はだか祭、稲沢夏まつりの花火大会、稲沢サンドフェスタ、リーフウォーク稲沢でのイベント)



名古屋や稲沢で働く子育て世代が 自分らしく人とつながれるまち

- ・名古屋市と稲沢市、子育て世代と高齢者が繋がれるとよい
- ・子育て世代が幸せになると、まち全体が幸せになる
- ・人とのつながりで安心を感じるまち
- ・高齢者と子育て世代が協力しあえるまち
- ・お互いのできることに頼ることができるまち
- ・上記の際に、保育園・公民館の利用やカフェが使えると良い

